

# 令和7年度 第1回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会） 議事録

日時：令和7年7月3日（木）14:30～15:45

場所：WEB開催

## 1. 開 会

事務局より研究評価委員会分科会（第一部会）委員の紹介  
国土技術政策総合研究所 所長挨拶  
以降の議事進行：主査

## 2. 令和7年度のスケジュール

事務局より、令和7年度の国総研研究評価委員会のスケジュールについて説明

## 3. 評 価

事務局より、評価の目的および評価方法・評価結果の扱いについて説明

### <令和8年度新規研究課題の事前評価>

#### （1）「生産年齢人口減少化における遠隔施工オペレータの多様化に資する研究」

国総研より、資料について説明。

【欠席委員からの事前意見】（●：欠席委員からの事前意見 ○：国総研側回答）

- 評価指標の検討について、安全性と生産性のトレードオフが生じる場面や作業の細分化による責任分界の曖昧さ、手引きの作成過程での新たな課題の顕在化など、不確実性の高い要素が多く、評価指標の設定が非常に難しくなる可能性もあるかもしれないと感じた。このため、今回設定される評価指標を最終形とするのではなく、実運用の中で見直しや修正が可能な柔軟性を備えた展開方針としてはいかがか。
- ご指摘のとおりであり、研究期間3年間でできるところまで作り、その後は技術開発の進展に伴い柔軟に進めていく必要があると認識している。
- 研究費について率直に不足しているのではないか。財政状況が厳しい中、かなり切り詰めて積算している印象を受けている。国総研内関係者の過度な負担で乗り切るのではなく、万一の際には追

加予算の確保や次期テーマへの継続など発展的な計画の見直しをぜひ検討いただきたい。

- 国総研所有施設の建設DX実験フィールドや機材などをできる限り使用することや、予算確保ができれば所有施設の拡充を図るなど、効率的に進めていければと考えている。

【質疑応答】（●：委員側発言 ○：国総研側発言）

- なぜ国総研でこの研究を実施しなければならないのか、民間ではどう進まないのかを明らかにする必要があるのではないか。研究の範囲について幅広い印象を受けているが、ある程度限定した形で技術開発を進めるのか。
- 最終的な技術開発は民間企業が行うものであり、国総研が技術開発そのものを行うことは考えていない。民間企業が技術開発を進める上で最初の第一歩となるスタートガイドのとりまとめを国の研究機関が行う必要があると考えている。また、研究の範囲はご指摘のとおり、限られた予算でありある程度限定した形で進めることになると想定している。
- 生産年齢人口減少下において人材の確保や効率化が求められる中、多様な人材が参画できるようにこの研究課題が設定されたと理解している。一方、効率化を考えると遠隔施工の更なる自動化を推進していく流れがあり、オペレーターに依存しないような技術開発をしていくようなことが考えられるが、自動化についてどこまで見込んでいるか。
- 自動化と遠隔化とは最終的に共存するものと考えている。自動化の目的は人を排除するところにあるが、遠隔化は建設業界への多様な人材参画のきっかけになればよいと考えている。  
自動化を否定するわけではなく、例えばオペレーターが建設機械を操縦しているときに楽しさを感じるなど、建設業界に楽しさを感じる部分が人が働く部分に残るのではないかと考えている。
- 障害者に限らず多様な人材がより建設業界に参画しやすくなる取り組みかと思うが、具体的にどのような層の人材が参画できるようになることを想定しているのか。
- コントローラー試作段階での検討にはなるが、片手操作なども含め想定したいと考えている。

#### 4. 閉 会

国土技術政策総合研究所 研究総務官挨拶